

科目名	心理学	担当教員	小山充道 ※印は実務経験のある教員を示す。			
-----	-----	------	--------------------------	--	--	--

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	必修	1年次	前期	2単位	講義

科目概要	「心の科学」としての心理学の歴史は浅く、当初は実験と観察を通じて始まり、近年では、生活の場における人間の心理的理解を深めて、臨床の場で諸々の心理学の知見を生かしていこうといった試みも増えている。リハビリテーション心理臨床の基礎となるような「基礎心理学」について学ぶ。本講義では、①心理学の入門編として様々な心理学の知見を概観、②心理学の視点や考え方を理解し、さらに③臨床的応用の可能性について質疑応答を取り入れ、受講生と議論を深めていく。そのために、学生が主体の双方向的な講義を展開する。
学習目標	『心理学』で用いる「心」に関して、生理 - 心理 - 社会的視点から心をつえ直し、「心のありよう」に関する理解を深めていく。心理学理論の把握と理解、心理学の視点から人間を見る目をもつ。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	心理学の視点	心を理解する各種の実証的方法について学ぶ	心理学の研究方法について、概略を把握する	
2	心理学の歴史と展開	「心」の概念の成り立ち	仮説構成概念である「心」の誕生および社会科学としての心理学発展の歴史を理解する	
3	行動の基本様式	行動水準を反射、本能、習得的行動、象徴理解等の視点から探る	行動にはさまざまな水準があり、多々ある行動把握の方法を知る	
4	発達：遺伝と環境	遺伝と環境に関する理論と応用	行動発達の規定要因を探りながら、発達的变化の様相について学ぶ	
5	学習・記憶Ⅰ	学習の成立過程と学習形態〔1〕	学習の成立過程と種々の学習形態について学ぶ	
6	学習・記憶Ⅱ	記憶心理と学習・記憶の神経学的基礎〔2〕	学習および記憶の神経心理学について学ぶ	
7	感覚と知覚Ⅰ	感覚の分化・統合と視知覚のメカニズム	感覚と知覚機構の理解を深め、視知覚のメカニズムについて視覚障害者事例から学ぶ	
8	感覚と知覚Ⅱ	聴知覚・触覚	聴知覚・触覚について聴覚障害者事例から学ぶ	
9	心理学の基礎的側面のまとめ	心理学の視点から発達・学習・記憶・感覚知覚について学びの定着を図る。	前半のまとめの講義と質疑応答、そして学びの定着を確認する目的で中間試験を実施する。	
10	思考と言語	思考・言語の本質の理解と高次脳機能の障害	ピアジェを軸とした知能に関する学びと脳損傷の心理学的メカニズムについて学ぶ	
11	動機づけ・情動	内的・外的動機づけおよびフラストレーション	フラストレーションの理解のみならず、コーピングおよびソーシャルサポートについても学ぶ	
12	個人差と知能Ⅰ	知能測定を軸とした個人差に関する理解	個人差を測定する知能および認知等の心理検査を体験し、個人差に関する理解を深める	
13	個人差と知能Ⅱ	パーソナリティの発達と不適応に関する理解	人格検査を体験し、パーソナリティの観点から個人差に関する理解を深める	
14	社会行動と心理Ⅰ	愛着、自我の形成過程と対人関係、自己（意識）等、自己と社会行動の関係に関する心の発達	種々の社会的行動の理解を図るとともに、対人関係に影響を与える“自己”について学ぶ	
15	社会行動と心理Ⅱ	認知的不協和理論、同調、社会脳（ミラーシステム）等の社会行動に関わる心の理解	自己が社会とどのように向き合っているのかについて、その方法、手段を具体的に学ぶ	

評価方法	9 回目に実施する中間試験（40%）と最終試験（40%）、講義時のミニレポートの提出および授業における応答・態度など、講義への関与度（20%）で評価を行う。
教科図書	毎回私製の資料を配布し、これに基づいて講義する。特定の教科書は用いない。
参考図書	配布資料は『鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編、『心理学第 5 版』東京大学出版会、1996 年』に基づく。その他の参考図書については、講義時に随時紹介する。
学習の準備	講義を受ける前に講義テーマに関する予習を行い、講義内容の概略と疑問点をつかんでおくこと。
オフィスアワー	随時
担当教員欄に※印を附した教員の 実務経 験	